



モダン寺新聞
〜 今号の記事 〜

一口法話「わたしのためのお寺」
浄土真宗の作法
お仏壇とお莊嚴（おかざり）
神戸別院行事レポート
連続掲載 第一回「仏教 ここが知りたい」
モダン寺ホームページ
神戸別院法座案内・編集後記

6 5 4 3 2 1
P P P P P P

一口法話 「わたしのためのお寺」

神戸市灘区 西念寺 副 高 朗 師

映画・演劇・習字・会合そして法座“私が子どものときのお寺の風景です。つまり、お寺は地域のコミュニティーセンターの役割を果たしていました。それが段々と分担され、現在ではほとんど法座のみとなりました。違いました。確かに、法座を行う場所がお寺であることには違ひありません。

しかし、あえて私は昔のコミュニティーセンター的な姿が本来の寺院であり、その姿に戻す努力を住職・門信徒でする必要がある、と考えています。

先の「阪神・淡路大震災」の時、倒壊を免れた寺院の多くが地域の方々のために開放されました。それは、寺院の自主性もさることながら、地域の住民からの要望に応えての開放も多く、そのことは地域の方々が、お寺とは「公の部分があり、抛り所としての場所」だと認識していたからに他なりません。

神戸別院では、震災以来定期的に「夕暮れコンサート」を開催していますが、参加者のみならず、演奏者からも「いつもとは違い、暖かい雰囲気を感じ、心休まる思いに出に残るコンサートであった」と感想を頂いています。

お寺の基本的な役割をご理解いただき、色々と活用して頂くことが大切なのです。それらのことによって単に寄り合いを越えて、大きなつながりの中に包まれる安らぎと、私の人生の抛り所の実感が湧いてくる、と確信しています。

きっと、私が子供の時よく耳にした

「お寺なら安心だ」という声が聞こえてくると思っています。



親鸞聖人 報 恩 講

日 時 平成12年11月27日（月）～29日（水）

浄土真宗の作法

お仏壇とお荘厳（おかざり）

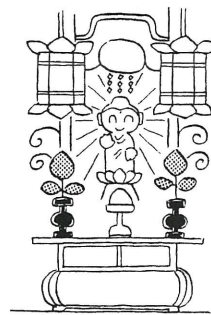
普段、皆さんがお家のお仏壇にお参りされるときに最初にするのはローソクに火をとますことではないでしょうか？（点燭と言います）では、このローソクに火をつけるのはなぜなのでしょう？中には「お仏壇の中を明るくするため」「お経を読むための明かり」と思われている方がおられるかもしれません。そもそもお荘厳というのは如来さまが私たちに向けてくださっているお心を深く味わう上での飾りなのです。確かにローソクの火は私がつけるのですが、この周囲を明るく照らす「光」は如来さまの智慧をあらわし、「お徳」として味わうことが大切となるわけです。また「熱」は如来さまの慈悲を表すといわれています。熱が氷を解かすように、お慈悲の温もりが私の固く閉ざした心を解きほぐしてくださるのです。このようにローソクの炎からは休むことなく私たちに働きかけてくださっている如来さまのお慈悲の心が伝わってきます。

このように味わっていきますとローソクの火も今まで以上に輝いてくるのではありませんか。



次に、お仏壇の中にお供えする代表として思い浮かべられるものが「お仏飯」と「お花」ではないでしょうか。「お仏飯」は他のお供物とは別に、

特に大事にされている物で毎朝ご飯が炊ければ一番にお供えすることになっています。最近では朝にはパンという家庭も増え、必ず朝ご飯を炊くとは限らなくなってきましたので、そんな場合には朝でなくともご飯を炊いたときには必ず真っ先にお仏飯としてお供えするように心がけてください。



次に、仏花にはどのような意味があるのでしょうか？以前、お参りにお伺いしたときに「仏花はご本尊にお供えしているのにどうして私たちのほうに向いているんでしょう？」という質問をされたことがあります。仏花をお供えするのは如来さまのお徳をたたえ、そのご恩に感謝する気持ちの表れなのです。これは先のローソクと同じように、私がお供えた花はそのまま私に注がれている如来さまのお心を表していると味わっていくのです。いきいきと咲いている花から如来さまの「いのち」を感じていただきたいものです。

以上のように普段は特に意識していないような仏壇のお荘厳でもひとつひとつにそれぞれ意味があり、如来さまのお心が感じられるものなのです。しかし、法事でお参りにお伺いしてお仏壇の前に座り、顔を上げると時々、「これは……」と思わず言ってしまうようなお宅に出くわします。お仏壇の中が果物やお菓子、お酒など所狭

しと占領されており、肝心のローソク立て、香炉、花瓶などの仏具がおろそかにされている時があります。確かに「故人の好きだったものをお供えしてあげたい」という気持ちは解からないでもないのですが、お供えはたくさんすればいいというものではないのです。むしろ、すっきりと、調和の取れたお飾りをしていただいたほうが良いかと思っています。

お仏壇は、ご本尊をご安置し家族一人一人の心の拠り所となる場所ですから、やはり自己流のお飾りをするのではなく、前述の意味を踏まえた上で常に清潔にし、すっきりとしたお飾りを心がけていただきたいと思います。また、お仏壇というのは何代にも渡って受け継がれていくものですから当然傷む事があります。そんな時には購入された仏壇店に「お洗濯」（修理）を頼まれてはいかがでしょうか。帰ってきた時にはしんぴんどうようになってくることでしょう。

最後に、今までの新聞にも掲載してきましたが、もう一度お仏壇のお飾りの上での注意点を述べておきましょう。

- ①お仏壇の主人（礼拝の対象）は如来さま
 - ②安置する場所は家族そろって心静かに参りできる場所
 - ③浄土真宗では位牌は用いない（故人の法名は過去帳に）
 - ④ローソク・お花などのお供え物は如来さまのお心として味わいましょう
 - ⑤浄土真宗では茶器などを使ってお水をお供えしない
 - ⑥お仏壇の中はいつもすっきりと清潔に
- などを注意していただきたいものです。

◆◆◆ 神戸別院行事レポート ◆◆◆

前お裏方様追慕の法要厳修

七月二十五日(火) 午後一時より別院本堂において六月二十二日(木)に逝去された光慧院釋淨恵(大谷嬉子前裏方様)様の追慕の法要をお勤めいたしました。同時刻より本願寺総御堂においても本葬が執り行われ、インターネットを通じて別院本堂に設置したモニターで中継し、お参りいただいた方々と一緒に約二時間前お裏方様をお偲びいたしました。



モダン寺で朝粥

八月一日(火)～三日(木)の三日間、恒例となりました「モダン寺暁天講座」を開催いたしました。早朝七時からのお勤め(正信偈)に続き、ご講師の法話をお聴きした後、一階ホールにて神戸別院仏教婦人会の方々に準備していただいたお粥をご講師の先生、職員共々でおいしく頂きました。お参りいただいた方々からも好評で今後も続けてまいりたいと考えています。

ので早朝七時という早い時間ではありますが、皆様のお参りを職員一同お待ちしております。

お盆期間中に東奔西走

八月十一日より十四日までの四日間、別院ご門徒宅へのお盆参りがありました。猛暑の中、盆参りを職員全員でまさに「東奔西走」のごとく一日平均一人約十～十五件のお参りをこなし、さすがに普段からお参りをしている職員もこの四日間だけは少しばかり疲れた表情を浮かべていました。また、お盆には別院納骨所へも多くの方々がご先祖を偲び、普段神戸に居られない方々も数多くお参りに来られて皆さんいろいろな形で仏縁に逢われておられたようです。

また、八月十五日(火) 午後一時三十分より別院本堂にて盂蘭盆の法要のお勤めがあり、多くの方にお参りをいただき、お勤めの後、神戸別院輪番山内教領より法話を申し上げ、お参りいただいた方々共々にお念仏を喜びました。

子ども会サマースクール開催

八月二十五日(金) 午後より今回で四回目となります「モダン寺土曜子ども会サマースクール」を開催いたしました。子どもたち七人と本願寺中央日曜学校の先生たち、職員と十五人で半日の限られた時間ではありましたが人形劇・すいか割り・室内キャンプファイヤーなど、どの子どもも積極的に十分に楽しんでいる様子でした。

最初のうちは少し緊張気味でしたが時間がた



つにつれて先生たちとも和気藹々と参加者全員夏休みのいい思い出になったのではないかと思います。今後毎年サマースクールは続けてまいりますので、ただでも参加していただけます。是非、普段のお寺では体験できない貴重な時間を一緒に過ごしてみませんか！

秋のお彼岸・門信徒の集い開催

九月二十二日より二十四日までの三日間、秋のお彼岸の法要をお勤めしました。特に二十三日のお彼岸の中日には午前十時より第四回「門信徒の集い」を開催し、約三十名の方々のご参加があり、皆様より事前にお寄せいただいた日常の仏事における質問に神戸別院輪番がお答えしました。実に様々な質問を頂戴し、参加いただいた方々からも「普段のお参りの時にはなかなか聞きにくいことが聞くことが出来た」と大変好評を頂きました。

午後一時半からの法要には百人を超える多くの方にお参りを頂き、法要に引き続き、滋賀教区の寺澤 忍先生のご法話をみな様と聴聞させていただきました。

連続掲載 第一回

「仏教 ここが知りたい」

九月二十三日（土）のお彼岸の中日に「門信徒の集い」を開催しました。参加者からの疑問に思っていることや質問を神戸別院山内輪番がお答えした内容をご紹介します。

はじめに

日頃、皆様方から色々な「これはどうしたらいいのだろう?」とたくさんさんの質問を受けます。私共は、葬儀の席でしばしばこのような質問を受けることが多いのですが、書店を覗いてみると冠婚葬祭や仏事の事に関する本が数多く出回っております。しかし、心配なのは、そのほとんどが間違った知識であるということです。どうかお知りになりたい事や、解からない事がありましたら、是非お聞きくださいますようお願いいたします。

Q、お佛飯はいつお下げしたらいいのですか

A、原則は午前中です。しかし、原理原則というのは人間が決めた一定のルール・決まりごとにとすぎませんのでそれにとらわれすぎることはないようにしてください。朝お供えをして昼までにお下げします。

お寺で出る食事やお葬式の後に出る食事を精

進潔斎の『斎』の字を書いて『お斎』と言います。

『斎』は時（昼）ということでお昼までに出される食事の事です。釈尊の頃の習慣では食事は午前中にとる事になっていました。その習慣に習ったのです。

ここ神戸別院では朝のお勤めの前にお供えをし、お勤めが終わってからお下げし、私をはじめ職員が分けて頂いています。

わたしの家は朝食にはパンを食べますが、皆さんの中で朝はご飯ではなく、パンを食べているという方もおられると思います。そういう場合は夕方にご飯を炊かれますでしょうか? この場合も原則は原則として踏まえて、現時点で精一杯の事をすることが肝心なのです。そうしなければ、今は出来ないからやめてしまう」ということになってはいけませんから。

お佛飯には、自分の「いのち」の元になっているものをお供えする、つまり、自分の「いのち」も、仏さまからいただいた「いのち」であるとの形でしよう。

Q、炊き込み御飯のお供えはいいのでしょうか
(肉や魚が入っていますか……)

A、生臭ものは供えません。仏様（阿弥陀様）へのお供えですので、精進が原則ですから本来ならば、別に白いご飯を炊くべきですが、それができなければその日だけは省略されても良いでしょう。

Q、佛飯の盛り方はどのような形にしたらいいのでしょうか

A、佛飯の盛り方は原則として二つあります。蓮の葉の形と、蓮の花の形です。どちらでも結構ですが、湯飲みや茶碗の小さいものを使われても良いでしょう。しかし、仏様へのお供えに使うのですから普段使っているとは別のもので用意してください。そして「お初」（その日最初のご飯）をお供えしてください。実は坊主とよく喧嘩になります。というのは自分がたらくく食べているのに仏様には少しだけしかお供えしないのか、と言ったりしています。皆さんも「どのくらい盛り付けたらいいのか解からない」という方がおられると思います。見た目に格好のいい形になっておればいいのです。ここ神戸別院でもやっている事ですが、佛飯器の見えない部分に丸い木の板を入れてその上に盛ります。そうしますと盛り付けやすいので見た目にも形が良く見えます。

今回はお佛飯に関しての事を掲載しましたが、まだまだ数多くのご質問を頂いております。順番に載せてまいりますので参考にしてください。また、ご質問等があればお待ちいたします。



モダン寺ホームページ

別院納骨所増設

現在、特別壇小型区画のみとなっております納骨所を一部増設いたします。増設区画は普通区画・小型区画をそれぞれ105基・32基増設いたします。随時受付けております。増設数に限りがありますので受付け完了の際にはご容赦ください。



みんな集まれ“ほとけの子”

モダン寺子ども会会員募集中!!

毎月第4土曜日10時30分「モダン寺土曜子ども会」を開催しています。子どもたちと職員とで一緒にゲームなどをしながら楽しく活動しています。また、年に一度夏休みを利用してサマースクールを開催しいつものお寺とは違った時間を子どもたちに体験してもらっています。子ども会では入会を募っています。学校での友達とは違ったたくさんのお友達が出来ると思います。一度遊びにきてください!! 12月24日には「報恩講こどもの集い」を行います。是非覗いてみてください!! 待ってます。

モダン寺法務日誌

月々のお参りより

先日、最近に酒屋をやめられたご門徒さんの家にお参りに行きましたら、玄関に「久庵」という看板、玄関先の床には犬の足跡をデザインした石が並べられたおしゃれな「これは、居酒屋でも始められたのでは……」と思ひ扉を開けてみますと、部屋の奥にはお仏壇が、そして普通の食卓が置かれており、よく聞いてみますと息子さんがちよつとふざけて遊んでるんですよ、とのこと。いい感じの雰囲気だったので「ちよつと残念」、ちなみに「久庵」の「久」は久代さんの「久」でした。

(Y)

久しぶりのお参りだったので可愛がられているペットの犬と遊べるかな?と思ひ動物好きの私は楽しみにいた時のことです。お勤めを終えて帰り際に少し遊んでいると前までは仲良く遊んでいたのに久しぶりだったせいか少しご機嫌斜めの様子で「顔を忘れられてしまったかな?」と少し寂しい気分になりました。

次のお参りの時には思ひ出してほしいものです。

(O)

聞きたいときに、いつでもどこからでも気軽に聞ける

モダン寺テレホン法話 078(341)8546

毎週月曜日ごとにお話が変わります。

本願寺神戸別院行事・法座案内

平成十二年十一月

平成十二年十二月

平成十三年一月

第一土曜仏教講座

四日(木) 午後一時三十分

「わが命・我いのちにあらす」

講師 相愛大学講師

本願寺派布教使

高橋 事久 師

第一土曜仏教講座

二日(土) 午後一時三十分

「現代社会における

親鸞聖人の教え」

講師 出石組 西宗寺

内田 宏圓 師

元旦会

一日(月) 午前七時

第一土曜仏教講座

休座

阪神・淡路大震災物故者追悼法要

十七日(水) 午後一時三十分

講師 滋賀教区護法組 正福寺

土基 謙 教師

仏教婦人会定例法座

休座

別院定例法座

十五(金)・十六(土) 日

午後一時三十分

講師 揖龍東組 浄蓮寺

竹内 俊之 師

仏教婦人会定例法座

二十日(土) 午後一時三十分

報恩講

別院定例法座

十五(月)・十六(火) 日

講師 未定

講師 神崎組 正善寺

松上 隆彰 師

報恩講

二十七(月)・二十九(水) 日

講師 安芸教区 山県西組 浄土寺

本願寺派布教使

朝枝 思善 師

除夜会

三十一日(日)

午後五時

報恩講師変更のお知らせ

先日、報恩講のご案内をさせて頂いたいただきましたが、ご講師山田行雄師のご都合により講師が上記の通り朝枝思善師に変更となりました。

編集後記

「モダン寺新聞」

の担当になって一年半が経ち、徐々にですが慣れてきたところです。今回で5回目の発行ですが作り始める時には「今回何を載せようか……」と頭を抱えています。が、いざ原稿を書き始めると「これも、あれも……」と、頭の痛い日々が続きます。

もっともこの「モダン寺新聞」で皆さんとのコミュニケーションをとって「早く新聞を……」と言われたい、と思っていいます。次は何にしようかな……?